

Godox 神牛

TTLリチウム電池丸型ヘッドカメラフラッシュ
TTL Li-ion Round Head Camera Flash

V1[®]



取扱説明書

深圳市神牛摄影器材有限公司
GODOX Photo Equipment Co., Ltd.

所在地/Addr: 深圳市宝安区福海街道塘尾社区耀川工业厂区房2楼1层~4层、4楼1层~4层/1st to 4th Floor, Building 2/1st to 4th Floor, Building 4, Yaochuan Industrial Zone, Tangwei Community, Fuhai Street, Bao'an District, Shenzhen 518103, China
電話 /Tel: +86-755-29609320(8062) ファックス /Fax: +86-755-25723423
電子メール/E-mail: godox@godox.com <http://www.godox.com>

705-V1C000-02

Made In China

FC CE RoHS  

本製品を使用する前に：

安全に本製品を使用することを確保するため、予め本取扱説明書をよく読んでください。必要な時にすぐに取り出せるよう大切に保管してください。

はじめに

この度は神牛の製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。





本カメラフラッシュはCanon EOSシリーズカメラに適用し、E-TTL II 自動発光に対応できます。E-TTLフラッシュを使うことによって、より簡単な撮影体験を獲得でき、光線変化の複雑な条件で自動に正しいフラッシュ露出を獲得でき、撮影が手軽になります。本製品の特徴は主に下記の通りです。

- ラウンドヘッドフラッシュは反射カップ設計であり、均一で柔らかい光の効果を実現し、より多いクリエイティビティのある光の効果を開き出します。2WのLEDモデリングランプを補助光として撮影効果を確保します。
- 76Wsの最大レベル発光出力、81段の調光(1/1~1/256)
- 専門的なリチウム電池、高品質体験
2600mAhリチウムポリマー電池、トータルパワー480回発光、1.5秒快速リサイクル、優れた携帯性
- Canon E-TTL IIに対応可能
E-TTL自動発光をサポートし、ワイヤレス灯発光システムのマスターユニットまたはスレーブユニットとして利用することができ、撮影はより簡単で便利になります。
- ドットマトリックスLCD
直観的な表示、より簡単な操作
- 2.4Gワイヤレス伝送内蔵
レシーバとトランスミッター一体化、超遠距離、無限なクリエイティビティ
- 整った機能、無限な利用可能性
手動発光とストロボ発光モード、ハイスピードシンクロ/第二幕シャッターシンクロ/フラッシュ露出補正などのE-TTL II機能をサポートします。
- 光学研究、出力安定
ハイスピード連続発光、回毎の出力輝度と色温度連続一致、光線均一分布
- ファームウェアアップグレード、互換性確保
オリジナルメーカーのカメラの更新に基いて、ソフトウェアをアップグレードできます。

警告



- ▲ 乾燥を保ってください。
- ▲ 自分勝手に本製品を分解しないでください。製品に故障が出た場合、本社または授權された専門業者よりチェックしたり、メンテナンスしたりしなければなりません。
- ▲ 子供の手が届かないところに保管してください。
- ▲ 分解したり、ショックしたり、押ししたり、火の中に投げたりしてはいけません。厳しく膨らむと、引き続き使用しないでください。50℃を超えた高温環境に置かないでください。
- ▲ フラッシュを人の目（特に赤ちゃんの目）に当てて発光しないでください。そうしないと、短期間に視力障害を起こす恐れがあります。
- ▲ 化学品、可燃性ガスまたは他の特殊物質の近くでフラッシュを使用しないでください。これらの物質は特殊な状況でフラッシュに対し瞬間的な強光過敏を起こし、火災または電磁干渉をもたらす恐れがあります。このような場合、関連する警告マークに注意してください。
- ▲ 本製品は防水できないため、雨天または湿っぽい環境で防水に注意してください。
- ▲ いかなる故障が起こった場合、直ちにフラッシュの電源をOFFにしてください。

目次

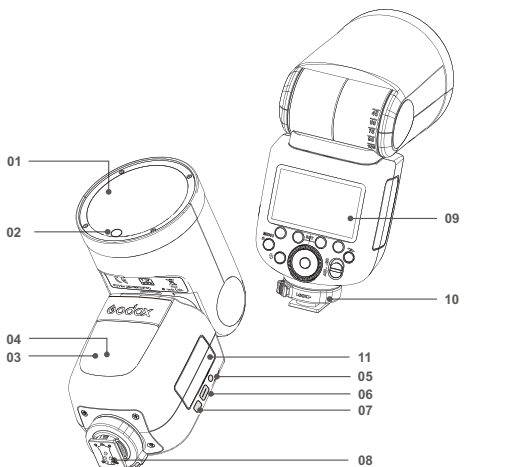
01	はじめに
02	警告
05	部品名称 本体 コントロールパネル LCD液晶ディスプレイ 三つのモードにおける各種LCD液晶ディスプレイの表示 標準添付品セット オプション部品
08	電池
09	モデリングランプ
09	フラッシュの着脱
10	電源管理
10	発光モード-- E-TTL自動発光モード  フラッシュ露出補正  FEB：フラッシュブラケット露出 FEL：フラッシュ露出ロック  ハイスピードシンクロ  第二幕シャッターシンクロ
13	発光モード-- M：手動発光
14	発光モード-- Multi：ストロボ発光
15	ワイヤレスフラッシュ撮影：ワイヤレス(2.4G)伝送 ワイヤレス設定 マスターユニットディスプレイ 通信チャンネルの設定 ワイヤレスIDの設定 空きチャンネルスキャンの設定 ETTL：全自動ワイヤレスフラッシュ撮影 ETTL：光量比を使ったワイヤレス多灯発光撮影 M：手動ワイヤレスフラッシュ撮影 Multi：手動ワイヤレスフラッシュ撮影
22	他の応用 シンクロソケットトリガー モデリング発光 AF補助光ランプ 反射発光 ZOOM：発光カバー範囲の設定 電池残量少警告
24	C.Fn：カスタム機能の設定
25	カメラメニューによるフラッシュの制御
26	保護機能
27	仕様
28	トラブルシューティングガイド
29	ファームウェアのアップグレード
29	対応カメラリスト
29	メンテナンスと保守

VING 逸客

TTLリチウム電池ラウンドヘッドカメラフラッシュ

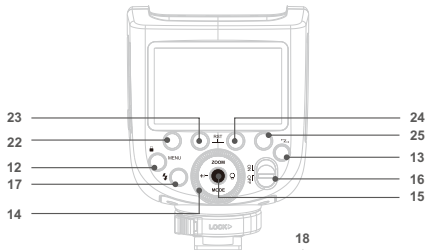
- 本取扱説明書に記載された操作ステップはカメラとフラッシュの電源がONにされているとします。
- ページ参照は（第**ページ）の形式で表示されます。
- 本取扱説明書は下記の警告マークを使います。
 この「警告」マークは撮影問題を避けるための警告です
 この「注意」マークは補充情報を提供することを表します。

部品名称



● 本体

- 01. フラッシュヘッド
- 02. LEDモデリングランプ
(01~10調整)
- 03. ワイヤレスセンサー
- 04. AF補助ランプ
- 05. シンクロソケット
- 06. Type-C USBポート
- 07. 電池取り外しボタン
- 08. ホットシュー
- 09. LCD液晶ディスプレイ
- 10. ホットシュー固定バックル
- 11. リチウム電池

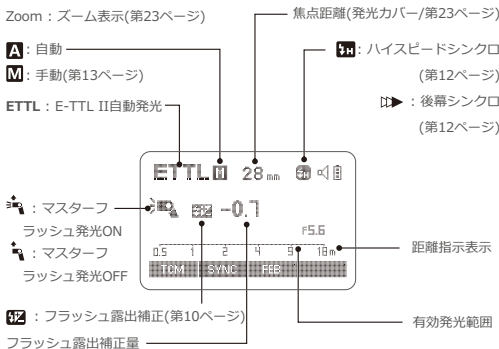


● コントロールパネル

- 12. <MENU> フラッシュメニューボタン/ロックボタン
- 13. <Z> ワイヤレスボタン
- 14. 調整つまみ
- 15. 設定ボタン
- 16. ON/OFF電源スイッチ
- 17. <L> フラッシュテストボタン/リサイクルインジケータ
- 18. <ZOOM> 焦点距離
- 19. <MODE> 発光モード選択ボタン
- 20. <Q> モデリングランプの設定
- 21. <+/-> パワー調整
- 22. 機能ボタン1
- 23. 機能ボタン2
- 24. 機能ボタン3
- 25. 機能ボタン4

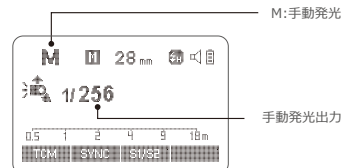
● LCD液晶ディスプレイ

(1) E-TTL自動発光

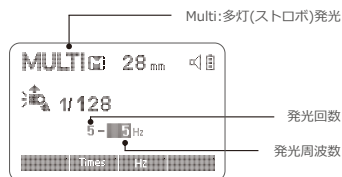


- ディスプレイに現在応用している設定だけを表示します。
- 機能ボタン1~機能ボタン4の上に表示する機能(例えば<SYNC>と<A/B/C/D>)は設定の状態に従って変化します。
- ボタンまたはダイヤルを操作する時に、液晶ディスプレイは点灯します。

(2) M手動発光

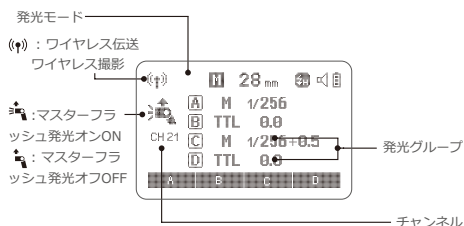


(3) Multiストロボ発光

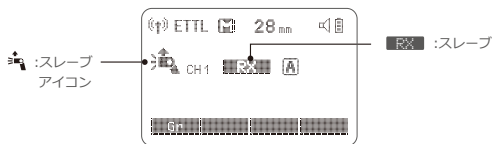


(4) ワイヤレス伝送撮影

● マスターユニット

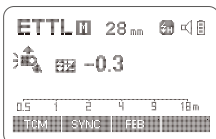


● スレーブユニット

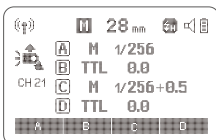


● 三つのモードにおける各種LCD液晶ディスプレイの表示

● 外付けモード



● 2.4Gワイヤレス伝送：マスターユニットそして



● 2.4Gワイヤレス伝送：スレーブユニットとして



● 標準添付品セット

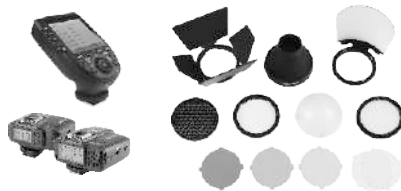
- 1.フラッシュ本体
- 2.リチウム電池
- 3.USB充電シート
- 4.充電ケーブル
- 5.充電器
- 6.マイクロベースシート
- 7.保護バッグ
- 8.取扱説明書



● オプション部品

弊社の下記の撮影アクセサリと組み合わせて使うと、最適な撮影効果と使用体験を得ることができます。

XProC、X1C TTLトリガー、AK-R1ラウンドフラッシュアクセサリなど。



電池

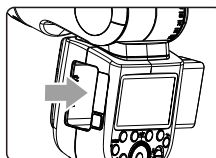
● 特徴

- 1.本製品はリチウムポリマー電池を使っており、500回の充放電サイクルをサポートし、耐用期間が長いです。
- 2.安全で信頼性が高く、内蔵回路は過充電保護、過放電保護、短絡保護を有しています。
- 3.付属している充電器を使う場合、3.5時間ぐらいで満充電になります。

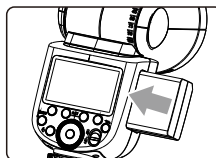
● 注意事項

1. 極性反転と短絡を避けてください。
2. 電池は防水機能を有していないため、電池を霧または水の中に浸さないでください。
3. 子供の手が届かないところに置いてください。
4. 充電する場合、電池を24時間以上放置しないでください。
5. 電池を涼しくて、乾燥と通気のとこに保管してください。
6. 電池を火の近くまたは火の中に置かないでください。
7. 電池を廃棄する時に地元のルールに従って処理してください。
8. 3ヶ月以上電池を使わなかった場合、電池を満充電させてください。

● 電池の着脱



- 1 電池の取り外し
 - 親指で電池ボタンを押して、手で下へ電池をプッシュすると、電池を取り出すことができます。



- 2 電池の装着
 - 電池指示方向に従ってリチウム電池を電池ボックスに差し込み、バックルがロックするだけで良いです。

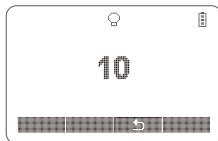
● 電池残量表示

リチウム電池を正しくフラッシュに取り付けると、フラッシュに給電できます。使用時に、フラッシュのパネルにある電池アイコンをチェックするだけで電池残量を把握できます。

電池残量表示	意味
3グリッド	電池残量はまだ十分あります
2グリッド	電池容量は減り始めました。
1グリッド	電池残量は低くなりました。
フレーム	残量が僅かで、直ちに電池を充電してください。
点滅	電池容量がすぐ切れます、この状態でフラッシュの操作をサポートしません。注：この状態になると、直ちに（10日内）充電してから、使用したり、放置したりすることができます。

モデリングランプ

モデリングランプボタンを押すことによって、モデリングランプ設定モードに入ります。設定ボタンを短押ししてモデリングランプをオンしたり、オフしたりします。モデリングランプがオンになった後、回転ボタンを回してモデリングランプの輝度を設定します。01~10というレベルがあります。



フラッシュの着脱



- 1 フラッシュの装着
 - フラッシュのつまみを左に回すと、完全にカメラのホットシューに差し込むことができます。



- 2 フラッシュのロック
 - フラッシュのつまみを右に回すと、ホットシューをロックできます。



- 3 フラッシュの取り外し
 - つまみにある押しボタンを押して、左に回すと、ホットシューのロックを解除できます。

電源管理

* ON/OFF電源スイッチで本製品の起動とシャットダウンを制御します。長時間にわたって使わない場合、電源を切ってください。本製品は電源自動シャットダウン機能を有しています。マスターユニットとして、長期間（約90秒）で操作されない場合、フラッシュは自動的にシャットダウンします。シャッターボタンまたは本体のいずれかのボタンを半押しするだけでフラッシュを呼び覚ますことができます。スレーブユニットとして、60分（30分のオプションもあります）でも操作されなかった場合、フラッシュはスリープ状態に入り、この時に本体のいずれかのボタンを押すと呼び覚ますことができます。

Fn オフカメラで使用時に、カスタム機能を通じて「電源自動シャットダウン」機能をディスプレイにさせることができます（C.Fn-STBY 24ページ目）。
C.Fn 「スレーブユニット電源自動シャットダウンタイマー」の出荷デフォルト設定は60分であるが、カスタム機能を通じて30分を選択できます（C.Fn-RX STBY第 24ページ）。

発光モード-- E-TTL自動発光モード

このフラッシュはE-TTL自動発光、M手動発光とMultiストロボ発光という三つのモードを有しています。ETTLモードで、カメラの測光システムは被写体から反射して返ってきた発光照明を計測し、自動に発光出力を調整し、被写体と背景を均一に露出させます。露出補正、露出ブラケット、ハイスピードシンクロ、第二幕シャッターシンクロ、露出ロック、絞りプレビュー造形発光、Canonカメラメニューアクセスなどの機能をサポートします。

* <MODE>モード選択ボタンを押して、三つの発光モードは順次に液晶ディスプレイに表示されます。

E-TTLモード

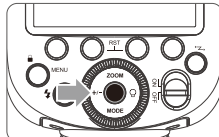
<MODE>モード選択ボタンを押して、フラッシュを<ETTL>に設定すると、フラッシュはETTLモードに入ります。

- カメラのシャッターボタンを半押ししてフォーカシングを行い、絞り値と有効発光範囲はディスプレイに表示されます。
- シャッター開放前の瞬間で一回の予備発光を行ない、フラッシュはカメラからの情報をレシーブしてからメイン発光を行います。

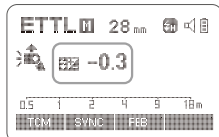
1/2 フラッシュ露出補正

本フラッシュは-3~+3段の間で、1/3段刻みにフラッシュ露出補正を調整します。環境のニーズでETTLシステムを微調整を行う必要がある場合、この機能は非常に便利です。

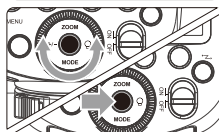
フラッシュ露出補正の設定：



- 1 <+/->ボタンを押して、パネルに<**1/2**>アイコンを表示させ、フラッシュ露出補正量はハイライト表示されます。



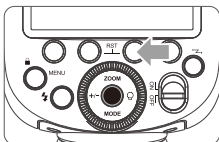
- 2 フラッシュ露出補正量の設定
 - 調整つまみを回し、露出補正量を設定します。
 - 「0.3」は1/3段を示し、「0.7」は2/3段を示します。



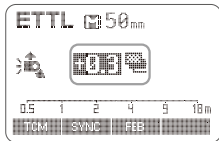
- フラッシュ露出補正を取り消す必要がある場合、フラッシュ露出補正量を「+0」に設定します。
- 3 設定ボタンを押して、フラッシュ露出補正を確認します。

FEB(フラッシュブラケット露出)

撮影するたびに±3段の間で1/3段刻みに自動に発光出力を変更することをFEB(フラッシュブラケット露出)と呼ばれます。この機能を使うと、カメラは3枚の発光出力(正常露出、露出不足、露出オーバー)の異なった写真を記録します。移動被写体を撮影したり、撮影シーンでライト効果が複雑な状況で撮影する場合、この機能を使うと、適切な露出を得ることができます。

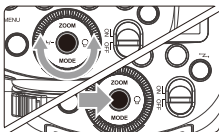


1 機能ボタン3<FEB>を押して、パネルに<FEB>アイコンを表示させ、また、FEBレベルはハイライト表示されます。



2 フラッシュブラケット露出量の設定。

- 調整つまみを回して、ブラケット露出量を設定します。
- 「0.3」は1/3段を示し、「0.7」は2/3段を示します。



3 設定ボタンを押して、FEB(フラッシュブラケット露出)を決めます。パネル表示はフラッシュ露出補正とフラッシュブラケット露出値表示にジャンプします。

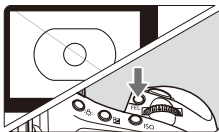
- 3回撮影は全部完了した後、フラッシュブラケット露出は自動に取り消されます。
- フラッシュブラケット露出の場合、カメラの駆動モードを「1枚撮影」に設定して、また、撮影前にフラッシュは準備に完成していることを確保します。
- フラッシュブラケット露出とフラッシュ露出補正及びフラッシュ露出ロックと一緒に使えます。

C.Fn 3回撮影後にフラッシュブラケット露出が自動に取り消されることを避けることができます(C.Fn-FEB ACL 第24ページ)。

FEL:フラッシュ露出ロック

FEL(フラッシュ露出)ロックを使用すると、撮影シーンのいかなる部分に対し、正しいフラッシュ露出設定をロックします。

液晶ディスプレイに<ETTL>が表示された時に、カメラの<FEL>ボタンを押します。カメラに「FEL」ボタンがない場合、<*>ボタンを押します。



1 被写体に対し、フォーカシングを行います。

2 <FEL>ボタンを押します。

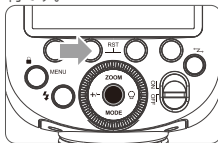
- ファインダーの中央を被写体に合わせてから、<FEL>ボタンを押します。
- フラッシュは予備発光し、また、被写体に必要な発光出力がメモリーに保存されています。

- 「FEL」はファインダーの中に0.5秒表示されます。
- <FEL>ボタンを押すたびに、フラッシュは予備発光を行ない、また、新しいフラッシュ露出設定がロックされます。

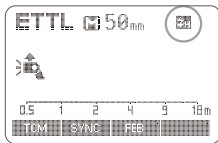
- 被写体は遠過ぎると、露出不足を起こし、<F>アイコンはファインダーの中で点滅します。被写体に近づいて、それから、再度フラッシュ露出ロックを試してください。
- 液晶ディスプレイに<ETTL>が表示されない場合、フラッシュ露出ロックを設定できません。
- 被写体が小さ過ぎると、フラッシュ露出ロックの効果は良くないことがあります。

ハイスピードシンクロ

ハイスピードシンクロ(FP発光)を使用すると、あらゆるシャッター速度でシンクロにフラッシュを使用できます。ハイスピードシンクロ発光は絞り優先を使って肖像を充填発光を行なう時に便利です。



1 機能ボタン2<SYNC>を押して、パネルに<H>アイコンを表示させます。

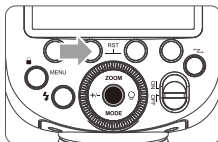


2 ファインダーの中に<H>アイコンを表示しているか否かを確認します。

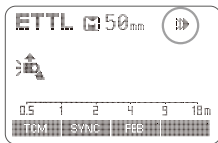
- シャッター速度はカメラの最大フラッシュシンクロ速度と等しいか、それより遅い場合、ファインダーの中に<H>が表示されません。
- ハイスピードシンクロを使用する時、シャッター速度は高いほど、有効な発光範囲は小さくなります。
- 普通発光を回復する必要がある場合、再度<SYNC>ボタンを押すと、<H>アイコンは消えます。
- ストロボ発光を設定できません。
- 15回引き続きハイスピードシンクロ発光を行なった後、フラッシュの熱保護機能はイネーブルになる可能性があります。

第二幕シャッターシンクロ

スロースピードシャッターを使用すると、被写体の後ろに1本の光線軌跡を作成できます。シャッターシャットダウン前の瞬間にフラッシュが発光します。

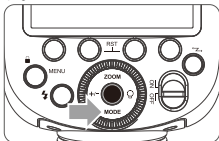


機能ボタン2<SYNC>を押して、パネルにアイコンを表示させます。

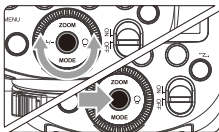
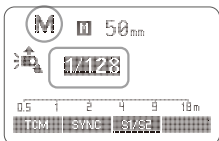


発光モード-- M: 手動発光

1/256パワー～1/1トータルパワーの間で、1/10段毎をステップとして発光出力を設定できます。正しいフラッシュ露出を獲得するため、手持ちの発光測光表を使用して必要な発光出力を決めてください。



- 1 <MODE>モード選択ボタンを押して、パネルに<M>を表示させます。



- 2 調整つまみを回して発光出力を設定します。
3 設定ボタンを押して、発光露出補正を確定します。

S1光制御ユニットの設定

M手動発光モードで、S1機能を使うことができます。フラッシュは補助ランプとして使われ、多様な照明効果を創り出すことができ、手動発光環境に適用します。これはメインフラッシュの1回目発光とシンクロに発光をトリガーでき、その効果はワイヤレストリガーの使用と一致します。

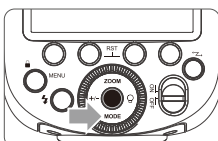
S2光制御ユニットの設定

M手動発光モードで、S2機能を使うことができます。フラッシュは補助ランプとして使われ、TTL発光環境に適用します。これは予備発光機能を有しており、1回予備発光機能を持ったカメラを使う時に光制御によってシンクロ撮影を実現できます。これはメインフラッシュの2回目発光とシンクロに発光をトリガーし、即ち、2回光制御トリガーを行うことができます。

● MモードだけでS1/S2光制御トリガーモードをサポートします。

発光モード：Multiストロボ発光

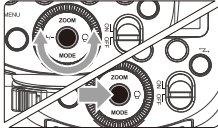
ストロボ発光を使うと、一連の快速発光を起こすことができます。これは1枚の写真において移動物体の複数イメージを撮影できます。発光周波数（秒毎の発光回数、Hzで表示します）、発光回数と発光出力を設定できます。



- 1 <MODE>発光モード選択ボタンを押して、パネルに<MULTI>を表示させます。



- 2 発光周波数と発光回数の設定
●機能ボタン2<Times>を押して、発光回数を選択し、調整つまみを回して数字を設定します。
●機能ボタン3<Hz>を押して、発光周波数を選択し、調整つまみを回して数字を設定します。



- 3 調整つまみを回して発光出力を設定します。
●設定ボタンを押して確認すると、あらゆる設定は表示されます。

シャッター速度の計算

ストロボ発光過程において、発光完了までシャッターは起動状態を保つべきです。下記の公式によってシャッター速度を計算してから、カメラを使って設定する。

発光回数/発光周波数=シャッター速度

例えば、発光回数は10であり、発光周波数は5Hzであると、シャッター速度は少なくとも2秒です。

- ▲ フラッシュヘッドの過熱と損傷を避けるため、引き続き10回以上のストロボ発光連続撮影を行わないでください。10回発光した後、フラッシュを少なくとも15分冷却させてください。引き続き10回以上のストロボ発光連続撮影を行った後、フラッシュヘッドの過熱を防ぐため、発光は自動に停止することがあります。このような状況が起こると、フラッシュを少なくとも15分冷却させてください。

- ●逆光の強い被写体の場合、暗い背景の前でストロボ発光を使うとより効果的です。
●三脚とリモコンスイッチの使用をお勧めします。
●発光出力は1/1と1/2である場合、ストロボ発光を設定できません。
●ストロボ発光時にも、「buLb」を使うことができます。
●発光回数は--と表示された場合、フラッシュはシャッターまたは電池が切れるまで引き続き発光します。下記の表に示すように、発光回数は限られます。

最大ストロボ発光回数

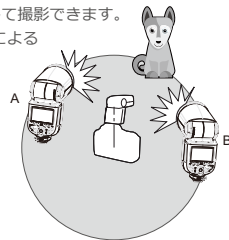
発光出力 \ Hz	1	2	3	4	5	6-7	8-9
1/4	8	6	4	3	3	2	2
1/8	14	14	12	10	8	6	5
1/16	30	30	30	20	20	20	10
1/32	60	60	60	50	50	40	30
1/64	90	90	90	80	80	70	60
1/128	100	100	100	100	100	90	80
1/256	100	100	100	100	100	90	80

発光出力	Hz	10	11	12-14	15-19	20-50	60-199
1/4	2	2	2	2	2	2	2
1/8	4	4	4	4	4	4	4
1/16	8	8	8	8	8	8	8
1/32	20	20	20	18	16	12	
1/64	50	40	40	35	30	20	
1/128	70	70	60	50	40	40	
1/256	70	70	60	50	40	40	

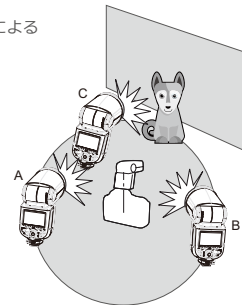
ワイヤレス多灯フラッシュ撮影

スレーブユニットを二つまたは三つのグループに分け、光量比（倍率）を変えると同時に、E-TTL II 自動フラッシュ撮影を行うことができます。また、各発光グループ（四つのグループまで）に対し、異なる発光モードを設定して撮影できます。

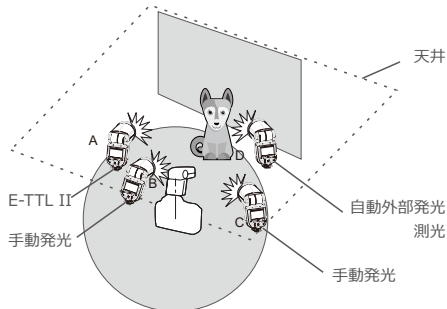
- 二つのスレーブグループによる自動フラッシュ撮影。



- 三つのスレーブグループによる自動フラッシュ撮影。



- グループ毎に設定されたそれぞれの発光モードによる撮影。



*図に示された発光モードはイメージ例のみです。

ワイヤレスフラッシュ撮影：ワイヤレス(2.4G)伝送

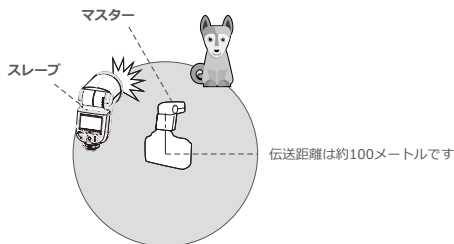
- ▲ ● カメラの撮影モードは全自動モードまたはプログラム映像コントロールエリアモードに設定された場合、本章に記載された操作を利用できません。カメラの撮影モードはP/Tv/Av/M/B（クリエイティブ撮影エリアモード）に設定してください。

- ● カメラに取り付けられたV1Cはマスターユニットと呼ばれ、ワイヤレスに制御されたV1Cはスレーブユニットと呼ばれます。
- フラッシュ信号トランスミッターX1T-C（別売）を使ってワイヤレスコントロールでスレーブユニットのV1Cに設定できます。マスターユニット機能の設定に関する詳細説明は信号トランスミッターの取扱説明書を参照してください。

ワイヤレス伝送ワイヤレス撮影機能を有したフラッシュ（マスター/スレーブ）は普通E-TTL II 自動フラッシュ撮影と同じ方法に従って、手軽に高級ワイヤレス多灯発光照明を利用して撮影できます。基本的な相対位置と操作範囲は図に示す通りであり、マスターユニットを<ETTL>に設定するだけでワイヤレスE-TTL II 自動フラッシュ撮影を行うことができます。

配置と操作範囲（ワイヤレスフラッシュ撮影例）

- スレーブユニットによる自動フラッシュ撮影

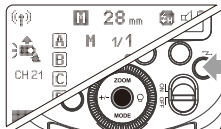


- ● 付属のマイクロブラケットを使ってスレーブユニットを固定すること。
- 撮影前にテスト発光とテスト撮影を行うこと。
- スレーブユニットの位置、周辺環境、天気状況などの影響によって、伝送距離はより短くなる可能性があります。

1、ワイヤレス設定

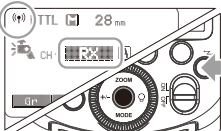
普通発光とワイヤレス発光を切り替えることができます。普通発光の場合、ワイヤレス設定を「オフ」に設定しなければなりません。

マスターユニットの設定



<W>ワイヤレス設定ボタンを押して、パネルに<W>を表示させます。

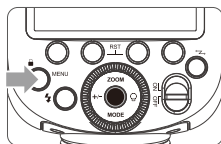
スレーブユニットの設定



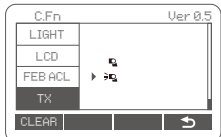
<W>ワイヤレス設定ボタンを押して、パネルに<W>と<RX>を表示させます。

2、マスターユニットのディスプレイ

マスターユニットをディスプレイにさせた発光モードで、スレーブユニットのフラッシュだけ発光します。



1 <MENU>メニューボタンを押して、カスタムTX設定に入ります。

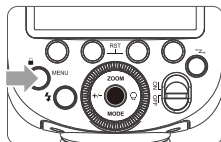


2 TX設定はON/OFFである時に、マスターユニットのオンとオフを制御します。

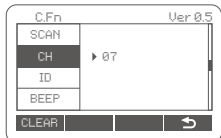
<M> : マスターフラッシュ発光ON
<M> : マスターフラッシュ発光OFF
●マスターユニットのフラッシュ発光がディスプレイになって、フラッシュは依然として予備発光を行ってワイヤレス信号を送送できます。

3、通信チャンネルの設定

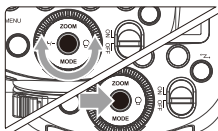
撮影現場に一つ以上のワイヤレス発光システムがある場合、通信チャンネルを変更することによって信号の干渉を防止できます。マスターユニットとスレーブユニットは同じチャンネル番号に設定されていることを確保するだけで良いです。



1 <MENU>メニューボタンを押して、カスタムCH設定に入ります。



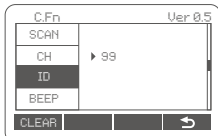
2 カスタム<CH>モードで、調整つまみを回して1~32からチャンネルを選択します。



3 設定ボタンを押して確認します。

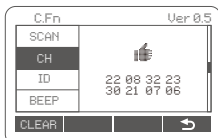
4、ワイヤレスIDの設定

信号の干渉を避けるため、ワイヤレス通信チャンネルを変更するほかに、ワイヤレスIDを変更することによって干渉を防ぐこともできます。マスターユニットとスレーブユニットを同じチャンネルとワイヤレスIDに設定するだけで良いです。C.Fn IDに入り、01~99からいずれかの数字を選択して、ワイヤレスIDがオンになり、OFFを選択すると、ワイヤレスIDがオフになります。



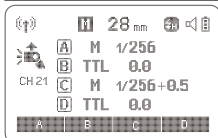
5、空きチャンネルスキンの設定

他人は同じチャンネルを使うことによる干渉を避けるため、空きチャンネルスキャン機能を使うことができます。カスタムメニューに入ってSCANオプションを探し、STARTに設定すると、1%~100%のスキニングが表示されます。スキニングが完了すると、8グループの空きチャンネルが表示されます。



6、ETTL: 全自動ワイヤレスフラッシュ撮影

一つのスレーブユニットによる自動フラッシュ撮影



1 マスターユニットの設定。

- カメラに取り付けられたV1Cをマスターユニットに設定します(第17ページ)。
- 信号トランスミッターX1T-Cをマスターユニットをしても良いです。X1T-CはV1CのZOOM値を制御できるが、ZOOMは自動(A)モードに設定すべきです。



2 スレーブユニットの設定。

- ワイヤレスに制御されるV1Cをスレーブユニットに設定します(第17ページ)。

3 伝送チャンネルのチェック。
●ワマスターユニットとスレーブユニットのチャンネルを同じに設定します(第17ページ)。

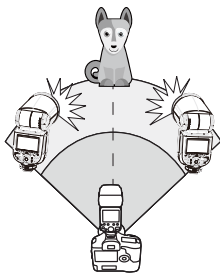
4 カメラとフラッシュの配置。
●カメラとフラッシュを示された範囲内に配置します(第15ページ)。

- 5 発光モードを<ETTL>に設定します。
- マスターユニットの<MODE>ボタンを押して、パネルに<ETTL>を表示させます。
 - マスターユニットに制御された撮影期間中にスレーブユニットは自動に<ETTL>に設定されます。
 - マスターユニットをも発光させるため、マスターフラッシュの発光をONに設定します(第17ページ)。

- 6 フラッシュは準備に完成しているか否かをチェックします。
- マスターフラッシュ準備済みインジケータは点灯しているか否かをチェックします。
 - スレーブフラッシュは準備済みになると、AF補助光ランプの発光部は1秒の間隔で点滅します。

- 7 操作のチェック。
- マスターフラッシュのテスト発光ボタン<T>を押します。
 - スレーブユニットは発光します。スレーブユニットは発光しないと、操作範囲内にあるか否かをチェックします。

複数スレーブユニットによる自動フラッシュ撮影



より大きい発光出力を必要としたり、より手軽に照明を行なったりする場合、スレーブユニットの数量を増やして単独のフラッシュとして発光させます。

スレーブユニットを追加する場合、「一つのスレーブユニットによる自動フラッシュ撮影」と同じステップを使って、いかなる発光グループ(A/B/C/D/E)を設定できます。スレーブユニットの数量を増やしたり、マスターフラッシュの発光はONに設定されたりした場合、あらゆるフラッシュは同じ発光出力で発光し、トータル発光出力が標準露出に達するように自動制御を行います。

- カメラの被写界深度プレビューボタンを押してモデリング発光を行なうことができます。
- スレーブユニットの自動オフ電源がイネーブルになっている場合、マスターユニットのテスト発光ボタンを押してスレーブユニットをオンにさせます。カメラの測光タイミング操作期間においてテスト発光を行うことができます。
- スレーブユニットの自動オフ電源がイネーブルになるまでの時間を変えることができます(C.Fn-RX STBY/第24ページ)。
- AF補助トランスミッターがスレーブユニットリサイクル完了時に点滅しないように設定できます(C.Fn-AF/第24ページ)。

全自動ワイヤレス発光の使用

マスターユニットで設定されたフラッシュ露出補正と他の設定もスレーブユニットで自動に設定できます。スレーブユニットを操作する必要はありません。普通フラッシュ撮影と同じ方法によって下記の設定を使ってワイヤレスフラッシュ撮影を行うことができます。

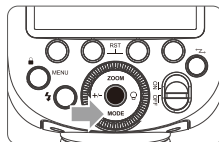
- フラッシュ露出補正 (第10ページ)
- 手動発光 (第13ページ)
- フラッシュ露出ロック (第11ページ)
- ストロボ発光 (第14ページ)

マスターユニットについて

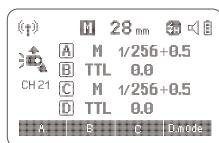
二つまたはそれ以上のマスターユニットを使うことができます。マスターユニットを搭載した複数のカメラを準備することによって、同じ照明(スレーブユニット)を保つ期間でカメラを変えて撮影できます。

7. M: 手動ワイヤレスフラッシュ撮影

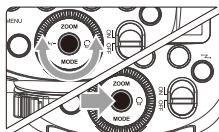
手動発光のワイヤレス(多灯発光)撮影によって、各スレーブユニット(発光グループ)に異なった発光出力を設定して撮影を行うことができます。マスターユニットであらゆるパラメーターを設定します。



- 1 発光モードを<M>に設定します。



- 2 発光出力の設定
- 機能ボタン 1/2/3/4<A/B/C/D>を押して、調整つまみを回して発光グループに発光出力を設定し、また、設定ボタンを押して確認します。



- 3 写真的撮影
- 各グループは設定された発光量比で発光します。

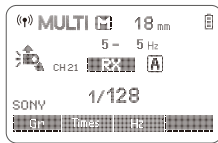
<M> 発光モードの設定

直接にスレーブユニットを操作して、手動に手動発光またはストロボ発光を設定できます。



- 1 スレーブユニットを設定します。(第17ページ)。
- 2 <M> 発光モードを設定します。
- <MODE> モード選択ボタンを押して、パネルに<M>を表示させます。
 - 手動発光出力を設定します。(第13ページ)。

8、Multi:手動ワイヤレスフラッシュ撮影



- 1 <MULTI> ストロボモードを設定します。
- <MODE> モード選択ボタンを押して、パネルに<MULTI> を表示させます。
 - ストロボ発光を設定します。(第14ページ)。

⚠ 神牛2.4Gワイヤレスミスフラッシュの原因及びその解決方法

1. 外部環境2.4G信号干渉(例えばワイヤレスベースステーション、2.4GWiFiルーター、ブルートゥースデバイスなど)
→トリガーのチャンネルCH設定(+10お勧めします)を調整し、干渉のないチャンネルを探し、または動作中に他の2.4Gデバイスをオフにしてください。
2. フラッシュのリサイクルは完了しているか、リサイクルスピードは連続撮影スピードに間に合うか(フラッシュが準備済みで、インジケータが点灯しています)、過熱保護または他の異常があるかを確認してください。
→フラッシュのレベルを低く調整してください。TTLモードである場合、Mモードに変更してください(TTLモードで1回予備発光してみる必要があります)。
3. トリガーとフラッシュとの距離は近過ぎますか(距離0.5m以下)。
→トリガーで「近距離ワイヤレスモード」をオンにしてください。
X1シリーズ: トリガーボタンを押したまま、起動し、インジケータが2回点滅します。
Xproシリーズ: C.Fn-DISTを0~30mに設定してください。
4. トリガーとレシーバサイドデバイスは電池残量少状態にありますか。
→電池を交換してください(トリガー電池は、使い捨ての1.5Vアルカリ電池をおすすめします)。

他の応用

シンクロソケットトリガー

シンクロソケットの規格はΦ2.5mmであり、ここにシンクロケーブルまたはトリガープラグを差し込んでフラッシュをシンクロトリガーできます。

モデリング発光

カメラに被写界深度レビューボタンがある場合、このボタンを押すと、1秒の連続発光を行なうことになります。この現象はモデリング発光と言われています。モデリング発光を通じて被写体のライティング効果と照明バランスをチェックできます。ワイヤレス撮影と普通フラッシュ撮影はどちらもモデリング発光を行なうことができます。

- ⚠ ● 引き続き10回以上モデリング発光をトリガーしないでください。引き続き10回モデリング発光した後、フラッシュヘッドの過熱または損傷を防ぐため、少なくともフラッシュを10分冷却させてください。
- EOS 300とB型カメラはモデリング発光をサポートしません。

AF補助光ランプ

輝度またはコントラストの低い撮影状況で、フラッシュの内蔵AF補助光ランプはオンになり、オートフォーカスをより易くさせます。フォーカシングし難い場合、赤色補助光ランプは点灯します。正しくフォーカシングした場合、補助光ランプは消灯します。

AF補助フォーカシング機能をオフにしたい場合、C.Fn設定で「AF」を「OFF」にしてください。

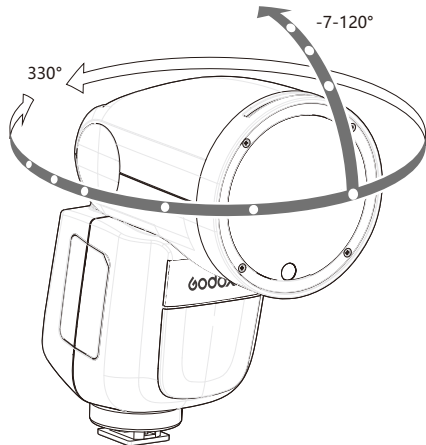
- ⚠ ● 使用中に、AF補助光ランプは点灯しない場合、カメラは正しくフォーカシングしているからです。

位置	有効範囲
中央	0.6~10メートル/2.0~32.8フィート
エッジ	0.6~5メートル/2.0~16.4フィート

反射発光

フラッシュヘッドを壁または天井に向かせることによって、発光は被写体を照らす前に壁に反射されます。こうして、被写体背後の陰影を軽減し、より自然的な撮影効果を得ることができます。これは反射発光と言われています。

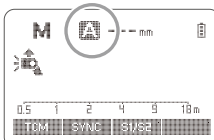
フラッシュヘッドを回して反射方向を設定します。



- 壁または天井は遠過ぎると、反射発光が弱過ぎて、露出不足が起こるおそれがあります。
- 効果的な反射を得るため、壁または天井は平たくて白くされるべきです。反射表面は白くない場合、写真にカラーキャストが出る恐れがあります。

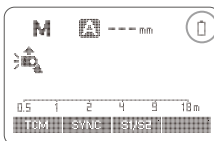
ZOOM: 発光カバー範囲の設定

このフラッシュには自動ズームと手動ズームという二つのズーム方法があります。発光カバー範囲を設定することによって、28~105mmのレンズ焦点距離とマッチできます。自動ズームの時、焦点距離はカメラのズームレンズの変化に従って変化し、最適な発光効果を提供します。



手動ズームの時に、<ZOOM>ズームボタンを押します。
● 調整つまみを回して発光カバー範囲を変更します。
● <A>モードで、自動に発光カバー範囲が設定されます。

- 手で発光カバー範囲を設定する場合、レンズの焦点距離をカバーすることを確保してください。こうして、写真に陰影のあるエッジが出ることを避けることができます。



電池残量少の場合、電池符号 が点滅します。この時に、電池を交換してください。

C.Fn: カスタム機能の設定

下記の表を参照して、カスタム機能を使用して設定します。

カスタム機能符号	機能	設定符号	設定と説明
m/ft	距離指示の表示	m	メートル
		ft	フィート
AF	オートフォーカス 補助光発光	ON	オン
		OFF	オフ
STBY	オートスリープの設定	ON	オン
		OFF	オフ
RX STBY	スレーブユニットは自動的に 電源タイマーをオフにします	60min	60分
		30min	30分
SCAN	空きチャンネルのスキャン	OFF	オフ
		START	空きチャンネルスキャン開始
CH	チャンネルの設定	01~32	32個のチャンネル選択可能
ID	ワイヤレスID	OFF	オフ
		01-99	01-99からいずれかの数字を選択してオーブンします
BEEP	ブザー	ON	オン
		OFF	オフ
LIGHT	バックライト点灯時間	12sec	12秒後に自動消灯
		OFF	常時消灯
		ON	常時点灯
LCD	液晶ディスプレイコントラスト	-3~+3	七つのレベル
FEB ACL	フラッシュ ブラケット露出 自動取り消し	ON	オン
		OFF	オフ
TX	マスターランプの制御		オフ
			オン

- 1.<MENU> ボタンを押してC.Fnメニューを表示させます。右上にある「Ver x.x」はソフトウェアバージョンを示します。
- 2.カスタム機能符号の選択
調整つまみを回してカスタム機能符号を設定します。
- 3.設定の変更
● 設定ボタンを押すと、カスタム機能符号は点滅します。
● 調整つまみを回して欲しい番号を設定し、設定ボタンを押して確認します。
● カスタム機能を設定した後、<MENU>モード選択ボタンを押すと、カメラは撮影できるようになります。
- 4.C.Fn状態で、「Clear」ボタンを2秒以上長押しすると、「OK」が表示され、C.Fnのパラメーターをリセットできます。

カメラメニューによるフラッシュの制御

フラッシュをEOSカメラに取り付けると、カメラによってフラッシュを制御できます。詳しい情報はカメラの取扱説明書を参照してください。

●フラッシュの設定

発光モードによって、異なった機能を設定できます。

- 1.発光モード
- 2.シャッターシンクロ
- 3.FEB
- 4.フラッシュ露出補正
- 5.フラッシュ発光
- 6.フラッシュ設定のクリア

●フラッシュのカスタム機能

C.Fn-00、C.Fn-01、C.Fn-03、C.Fn-08、C.Fn-10、C.Fn-20、C.Fn-22、全部で七つの機能です。

あらゆるフラッシュのカスタム機能をクリアします

発光機能カスタム画面

フラッシュ機能の設定	
発光モード	E-TTL II
シャッターシンクロ	先発シンクロ
フラッシュブラケット露出	-3.2,1.0,1.2,3
フラッシュ露出補正	-3.2,1.0,1.2,3
E-TTL II	評価
フラッシュ発光	オン
フラッシュの設定をクリアします	

発光C.Fnの設定画面

フラッシュカスタム機能の設定	
電源自動オフ	<input checked="" type="checkbox"/>
0: オン	
1: オフ	
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	

*画面はEOS-1D MARK IIIの画面です。

- フラッシュを使ってフラッシュ露出補正を設定した場合、カメラを通じてフラッシュ露出補正を設定することができません。カメラを通じて設定したい場合、まずフラッシュのフラッシュ露出補正を「0」に設定する必要があります。

- カメラとフラッシュを通じてフラッシュ露出補正以外のフラッシュカスタム機能とフラッシュ機能を設定する場合、最後に行なわれた設定はイネーブルになります。

保護機能

1. 熱保護

- フラッシュヘッドの過熱と損傷を防ぐため、1/1パワーで30回を超えた快速連続発光を行なわないでください。30回連続発光を行なった後、少なくともフラッシュを10分冷却させます。
- 30回を超えた連続発光を行なった後、引き続き多くの発光を行なうと、フラッシュ内部の過熱防止機能はイネーブルになる可能性があります。リサイクル時間は10秒以上になります。この現象が起こった場合、フラッシュを約10分間冷却させると、フラッシュは正常に戻ります。
- 熱保護が起動すると、ディスプレイに符号 $\frac{1}{128}$ が表示されます。
熱保護機能がイネーブルになる連続発光回数：

パワー	回数
1/1	30
1/2 +0.7	40
1/2 +0.3	50
1/2	60
1/4(+0.3,+0.7)	100
1/8(+0.3,+0.7)	200
1/16(+0.3,+0.7)	300
1/32(+0.3,+0.7)	500
1/64(+0.3,+0.7)	1000
1/128(+0.3,+0.7)	

ハイスピードモードで、熱保護がイネーブルになる連続発光回数：

パワー	回数
1/1	15
1/2(+0.3,+0.7);	20
1/4(+0.3,+0.7)	30
1/8(+0.3,+0.7);	
1/16(+0.3,+0.7)	40
1/32(+0.3,+0.7);	
1/64(+0.3,+0.7);	50
1/128(+0.3,+0.7);	

2.他の保護

- デバイスの安全を保証するため、システムは随時に予防保護を行ないません。下記の提示符号は参照されます。

LCD表示	警告内容
E1	フラッシュのリサイクルシステムに問題があり、リサイクルトリガーできません。フラッシュを再起動してください。再起動しても問題を解決できない場合、メンテナンスする必要があります。
E2	デバイスの内部温度が高過ぎるため、トリガーを中止して10分間放置してください。
E3	フラッシュチューブ両端の電圧は高過ぎるため、メンテナンスしてください。
E9	ファームウェアアップグレードに誤りがあり、正しいファームウェアアップグレードを行なってください。

仕様

タイプ	V1C
対応カメラ	Canon EOSカメラ(E-TTL II自動発光)
パワー (1/1レベル)	76Ws
フラッシュカバー範囲	28 - 105mm ●自動ズーム(自動にレンズ焦点距離と画像サイズに合う発光カバー範囲を設定します) ●手動ズーム ●フラッシュヘッド回転/傾斜、水平0~330° 垂直-7°~120°(反射発光)
発光持続時間	1/300秒 - 1/20000秒
●露出制御	
露出制御システム	E-TTL II自動発光、手動発光
フラッシュ露出補正(FEC)	手動、フラッシュブラケット露出: ±3段で1/3段刻みに調整します(手動フラッシュ露出補正とフラッシュブラケット露出と組み合わせて使うことができます)
フラッシュ露出ロック(FEL)	<FEL>ボタンまたは<* >ボタンを使います
シンクロ方式	ハイスピードシンクロ(最高1/8000秒)、 先幕シンクロ、後幕シンクロ
ストロボ発光	あり(回数: 100回; 199Hz)
●ワイヤレス発光(ワイヤレス2.4G伝送)	
ワイヤレス機能	マスターユニット、スレーブユニット、オフ
マスターユニットグループ	A、B、C、D
制御可能スレーブユニットグループ	A、B、C、D、E (グループEはXシリーズのトリガーによって制御できます)
伝送範囲(約)	100m
チャンネル	32グループ: 1~32
ID	01~99
モデリング発光	カメラの被写体深プレビューボタンを使って発光します
AF補助光	
有効範囲(約)	中央: 0.6 - 10メートル / エッジ: 0.6-5メートル
●LEDモデリングランプ	
パワー	2w
色温度	3300K±200K
●電源	
リチウム電池内蔵	7.2V/2600mAh リチウム電池
リサイクル時間	<1.5秒、フラッシュ準備完了、LED緑色インジケータ一点灯
フルパワー発光回数	約480回
節電	90秒ぐらい操作しないと、フラッシュは自動に電源オフになります。スレーブユニットに設定された場合、60分後に、スリープ状態に入ります。
●シンクロトリガー方式	
●サイズ	
体積	76*93*197 mm
正味重量(電池を含まない)	420g
重量(電池を含む)	530g

トラブルシューティングガイド

問題に合う場合、このトラブルシューティングガイドを参照してください。

フラッシュは発光しません。

- フラッシュはしっかりとカメラに取り付けられていません。
→フラッシュの固定シートをしっかりとカメラに取り付けてください。
- フラッシュとカメラの電子接点は汚くなっています。
→接点をきれい(に)してください。
- <◀>または<▶>アイコンはカメラのファインダーに表示されていません。
→フラッシュリサイクルの完了を待ってください。フラッシュの準備が完了すると、インジケータは点灯します。
→フラッシュの準備が完了してインジケータは点灯するが、カメラのファインダーの<▶>または<▶>アイコンはまだ点灯していません。ホットシューの接続をチェックしてください。フラッシュは適切にカメラに取り付けられていることを確認してください。
→長い時間待ったが、フラッシュの準備完了インジケータはなかなか点灯しない場合、電池残量をチェックしてください。電池残量が低い(フラッシュディスプレイの電池電圧不足アイコンが点滅しています)場合、電池を交換してください。

電源自動オフ

- マスターユニットとして、90秒操作しないと、電源自動オフ機能はイネーブルになります。
→シャッターボタンまたは本体のいずれかのボタンを半押しすると、呼び覚ますことができます。
- スレーブユニットとして、60分(30分も選択できます)で何も操作しないと、フラッシュはスリープ状態に入ります。
→本体のいずれかのボタンを押すと、呼び覚ますことができます。

自動ズームは作動しません。

- フラッシュはしっかりとカメラに取り付けられていません。
→フラッシュの固定シートをしっかりとカメラに取り付けてください。

フラッシュ露出不足または露出過度

- 写真の中に反射の強いサブジェクト(ガラス窓など)があります。
→フラッシュ露出ロック(FEL)を使います。
- ハイスピードシンクロの使用。
→ハイスピードシンクロを使おうと、有効な発光範囲はより小さくなります。被写体を示された有効範囲内に置いてください。
- フラッシュは手動露出モードに設定されています。
→ETTLモードに設定したり、発光出力設定を変更したりしてください。

写真に暗い部分があるか、被写体は一部だけ照らされています。

- カメラレンズの焦点距離はフラッシュのカバー範囲を超えています。
→フラッシュの現在カバー焦点距離をチェックしてください。本製品のフラッシュヘッドズーム範囲は中判システムの28~105mmです。

ファームウェアのアップグレード

- 本製品のUSBポートはType-Cポートで、Type-C USBケーブルを使ってください。
- 本製品のファームウェアをアップグレードする時に、Godox G3プログラムソフトウェアのサポートが必要です。ファームウェアをアップグレードする前に、「Godox G3ファームウェアアップグレードソフトウェア」をダウンロード・インストールしてから、相応するファームウェアを選択してください。
- ファームウェアをアップグレードした後、その取扱説明書は最新電子バージョンをご参照ください。

対応カメラリスト

本製品は下記のCanon EOSシリーズのカメラタイプに対応できます。

1DX	5D Mark III	5D Mark II	6D	7D	60D	50D	40D	30D
650D	600D	550D	500D	450D	400D Digital	1100D	1000D	
5D Mark IV	7D Mark II	6D Mark II	760D	750D	70D	80D		
800D	77D	M5	M3	M50	EOS R	1500D	3000D	

注：

1. このリストに記載されたのはテストされたカメラのタイプであり、あらゆるCanon EOSシリーズのカメラを含んだものではありません。他のカメラのタイプについて、ユーザーは自分でテストしてください。
2. 弊社は予告なしにこのリストに記載された内容を変更することがあります。

メンテナンスと保守

- フラッシュは作動している時に異常が起こった場合、直ちに電源を切って、原因を究明してください。
- 本体を振動させないでください。ふだん、本体表面のちりを掃除してください。
- 本体にわずかに熱が発生することは正常です。特別な需要はない場合、連続にトリガーしないでください。
- フラッシュのあらゆるメンテナンスは弊社の指定したオリジナル部品提供可能な修理業者より担当します。
- 保証期間は1年間です。フラッシュチューブなどの消耗品は保証範囲内に属されません。
- 自分勝手にフラッシュを修理した場合、フラッシュの1年間保証期間が取り消されます。メンテナンスする時、関係費用を受け取ります。
- 本製品は故障が起こったり、水に濡れられたりした場合、専門者にメンテナンスされてから、はじめて使用できます。
- 弊社は予告なしに技術を変更することがあります。